

## [要約] 沖縄県における 1977-2015 年の間のハブ類咬症の症状ならびに治療の様式 4—ハブと他の 2 種との間における咬症頻度の比較

盛根信也・西村昌彦\*・泉水由美子・糸数清正

### [Summary] Symptoms and Treatments at the Bites of Viperid Snakes in Okinawa Prefecture from 1977 to 2015 (4) — Comparisons of Frequencies of Bite Cases between *Protobothrops flavoviridis* and Other 2 Species

Nobuya MORINE, Masahiko NISHIMURA\*, Yumiko IZUMI and Kiyomasa ITOKAZU

全文掲載, All content : <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/syoho51-55.htm>

Key words: ハブ, サキシマハブ, ヒメハブ, 咬症, 症状, 治療, 種間の比較, 医療機関, 受傷部位, 沖縄県, Viperid snake, *Protobothrops flavoviridis*, *P. elegans*, *Ovophis okinavensis*, Bite, Symptom, Treatment, Inter-specific comparison, Medical institution, Body part, Okinawa Prefecture

#### [要約]

沖縄県ではハブ類咬症における症状や治療に関する情報を、患者が受診した医療機関が調査票として記録してきた。それらの資料について、総数の集計、ならびに主要な 3 種それぞれにおいて、時代、医療機関、受傷部位別に集計した結果、加害種、受傷部位、医療機関、時代によって咬症頻度に差異が認められた。本報では各受傷部位について同じまたは対応する医療機関ごとに、ハブとサキシマハブまたはヒメハブとの間で咬症件数を比較し、種間の頻度差を推測した。

1977-2015 年に沖縄県内で発生したハブ類咬症例は、複数部位を受傷した例を除いてハブ 2655 件、サキシマハブ 1358 件、ヒメハブ 455 件であった。

本報では時代間の比較は、大部分の受傷部位ならびに医療機関において同様の傾向が認められたため、行わなかった。受傷後の症状と治療についての種間の比較は、ハブと他の 2 種間で、各項目における該当と非該当の件数を対比して行った。受傷部位別の比較では、主要部位である手指、足、手を対象とした。対象の医療機関は、ハブとヒメハブの比較においては医療機関 M15、ならびに医療機関 M25 とした。本来異所的に分布するハブとサキシマハブとの比較では、ハブでは沖縄島の上記の 2 医療機関と医療機関 M39 の計、サキシマハブでは医療機関 M71 を対象とした。頻度の検定結果を表に示し、その中で対応する県立病院において有意差が認められた場合を図に示した（全文掲載を参照）。

以下では、ハブに対するサキシマハブの頻度の高低を記す。緊縛、吸引、切開、出血は低頻度、疼痛、腫張は高頻度であった。過去の受傷有りは高頻度、牙痕数が 2 以上は低頻度であった。抗毒素の注射有り、30 ml 以上注射は低頻度であった。一方、静注以外のみの注射、注射まで 1 時間より長く経過が高頻度であった。治療期間が 7 日以上、入院有りは低頻度で、リハビリ有りは高頻度であった。

以下では、ハブに対するヒメハブの頻度の高低を記す。緊縛、出血は低頻度、疼痛は高頻度であった。抗毒素の注射有り、30 ml 以上注射は低頻度で、注射まで 1 時間より長く経過は高頻度であった。治療期間が 7 日以上、入院有り、機能障害有りは低頻度であった。

\* 元 沖縄県衛生環境研究所職員